

ラグビーは安全で楽しいよ！

ラグビー体験教室



▲プレーを楽しむ子どもたち

ラグビーのルールからタックルなどの接触をなくした「タグラグビー」の体験教室が2月27日、本渡運動公園陸上競技場で行われました。市タグラグビー普及協会が開催したもので、市内の小学生など40人が参加。

同協会会員によるルール説明などの後、チームに分かれて試合を体験。参加者は、「誰でも安全で気軽に楽しめるスポーツ。またやってみよう」と笑顔で話していました。

市勤労青少年ホームの活動をPR

わーくパルあまくさフェス



▲ヨガを体験する参加者

市勤労青少年ホーム(船之尾町)の講座を誰でも体験できる「わーくパルあまくさフェス」が2月27日、同ホームで開かれました。市教育委員会が、同ホームの活動をPRしようと開催したもので、地域住民など100人が参加。ヨガや料理などの体験講座が行われ、参加者は「充実した内容。これを機に友人とも参加してみたい」と話していました。このほか、音楽ライブや交流会も行われました。

優れた“おもてなし”の活動をたたえて

第3回天草スゴか人グランプリ



▲最優秀賞を受賞した「河浦高校ボランティア同好会」の皆さんと「太陽企業グループ」(富永良一・取締役常務)

「第3回天草スゴか人グランプリ」(天草島民総おもてなし運動プロジェクトチーム主催)の表彰式が2月21日、天草宝島国際交流会館ポルトで行われ、世界遺産候補の崎津集落の観光案内に取り組んでいる「河浦高校ボランティア同好会」、平成17年から天草トライアスロンや花しょうぶ祭りのコース・会場周辺の清掃活動に取り組んでいる「太陽企業グループ」が、最優秀賞を受賞しました。

新しいみぞか号出発！

天草エアラインATR42-600就航



▲新しいみぞか号に乗り込む乗客たち

天草エアラインの新型機“ATR42-600”(みぞか号。48人乗り)が2月20日、就航しました。この日は出発式典が行われ、行政関係者など30人が出席。天草エアラインの吉村孝司社長が「安全第一で、愛される航空会社を目指します」とあいさつした後、就航を祝してテープカットが行われました。

午前8時発の第1便には、46人が搭乗。雨の中、新しいみぞか号は無事、福岡空港に向けて飛び立ちました。

色鮮やかなひな人形に囲まれて

下津浦地区ひな祭り会



▲ひな人形が展示された会場ようす

下津浦地区振興会主催の「ひな祭り会」が2月21日、同地区コミュニティセンター迫分館で開かれ、70人が来場しました。

色鮮やかな7段飾りのひな人形など30体を展示したほか、浦和保育所の園児による歌と踊りの披露やだご汁などのバザー、フリーマーケットを実施。来場者は、ひな人形に囲まれて、楽しいひとときを過ごしていました。

牛深の食と文化を堪能

うしぶか海食祭2016



▲ブリの刺し身を購入する来場者

牛深の食のブランド化と地域活性化を目的とした「うしぶか海食祭2016」が2月21日、うしぶか海彩館で開かれました。同祭実行委員会が、牛深港が“みなとオアシス”に認定・登録されたことをきっかけに開催しているもので今回で5回目。牛深で養殖されたブリの刺し身や雑節を使ったうどんなどの販売のほか、「第5回創作ハイヤ踊りコンテスト」を実施。市内外から約3,000人が訪れ、牛深の食と文化を堪能していました。

事業者の“生の声”を政策・改善につなぐ

“ちいさな企業”交流キャラバン



▲説明をする豊永長官

中小企業庁が全国各地を巡り事業者と対話を行う「“ちいさな企業”交流キャラバン」が2月18日、今年度は九州で唯一、天草市で開かれました。会場となった天草信用金庫本店には、同庁の豊永厚志長官をはじめ、行政関係者、市内10事業者などが出席。

意見交換では、事業者が取り組んでいる事業の内容や現状、課題などを説明し、豊永長官は「天草の地域資源を国内外にアピールすることに力を注ぐべき」と話していました。

今後のまちづくりと福祉活動に役立てる

「倉岳地域幸福量調査」結果報告



▲講座のようす

昨年6～8月に市と社会福祉協議会などが倉岳町住民に行った「幸福量調査」の報告が2月21日、倉岳多目的研修集会施設で行われ、住民112人が来場しました。調査は、住民が抱える課題と要望を把握し、まちづくりや福祉にいかそうに行ったもの。報告は公民館講座として実施され、市職員が「幸せでない」と答えた8.6%の人をいかに少なくするかが急務」などと説明。中村市長の講演も行われ、来場者は熱心に聞き入っていました。